

⑨ドレミファ橋

巾着田の高麗川にかかるドレミファ橋は、かつては飛び石状の橋だったことから、この名前がつけられています。

ドレミファ橋とつながる高麗峠は、日高市と飯能市を結ぶハイキングコースとして人気です。 日高市ホームページより



日高市ホームページより

2021年3月4日撮影畑中

⑩満蔵寺

満蔵寺は、真言宗智山派の寺で南幢山持地院満蔵寺と称する。開山した僧の名は慶順といい、年代は明らかでない。慶安年間（1648-1652）に地蔵堂領として時の将軍より御朱印三石を賜った。また、地蔵堂は、昔から開かずの扉といわれ、この中に保存されている地蔵菩薩は、高さ九寸（約27cm）運慶の作と伝えられている。この菩薩は、人々の苦悩を代って引き受けてくれる代受苦の菩薩といわれている。また、ここ梅原の地は、幕末から明治にかけて、甲源一刀流のすぐれた使い手を出しており、なかでも比留間半蔵は、剣豪として特に有名である。（新編武蔵風土記稿より）



左記文面看板に説明あり

2021年2月25日撮影畑中

⑪⑫ 市指定文化財：彫刻



⑪⑫満蔵寺木造不動明王及び両脇侍像

満蔵寺の本尊で、頭頂部に水瓶を戴く、珍しい不動明王坐像です。不動明王の左に矜羯羅童子（こんがらどうじ）、右に制陀迦童子（せいたかどうじ）を配する不動三尊像です。三尊ともに形制、彫技が整った洗練された出来映えを見せています。像高は不動明王が48.5センチメートル、矜羯羅童子は31センチメートル、制陀迦童子は32.8センチメートルです。

⑬甲源一刀流（こうげん）

当流は、甲斐源氏の流れを汲む逸見太四郎義年が、安永五年（一七七六）、家伝の兵法に一刀流の剣技を取り入れ、さらに創意工夫を加えて新たに創造した剣術である。

「甲源」とは、甲斐源氏にちなんで名付けた名称である。

全盛時代は、江戸中期末から明治後期に至る百余年間で、「武州小沢口に甲源一刀流あり」と世に広く知られ、門人は北海道から鹿児島にまで及んだ。 日本古武道協会より



当流の形（霞隠）

日本古武道協会より

⑭比留間半蔵親子

比留間家は、比留間与八、比留間半造、比留間良八と3代続けて達人を輩出して、比留間家の道場は門弟数千人と称し、甲源一刀流の隆盛に大いに貢献した。比留間与八の子・比留間半造は、八王子千人同心に剣術を指導した。これにより八王子千人同心の間で甲源一刀流が広まった。弘化年間(1845年-1848年)には徳川家慶の前で剣技を披露して甲源一刀流の流名を高めたといわれる。

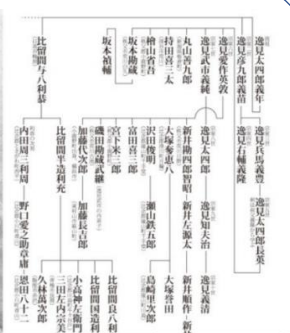
比留間良八は、天保12年（1841）に、高麗郷梅原村（現日高市）の甲源一刀流の名門、比留間半造の長男として生まれた。

（越生町ホームページより）



比留間半蔵の長男良八

越生町ホームページより



⑮梅原地区の梅園の風景

梅原地区に大規模の梅園とはいえないが、里山に数多くの梅の木がある。3月初旬満開で見事に咲き誇っていた。



2021年3月4日撮影畑中